

と曰ひ、此の時より Selenga 河上の根據地を稍々南に遷し、獨樂水即ち Tola 河邊に據るに至れりと爲せり。

此の年に於ける薛延陀回鶻等の東突厥に對する背叛は、兩唐書突厥傳にも明記せられ、啻に此等の二部のみならず、拔野古の如きも亦其の中に在りたるものなりとす、而して此の背叛は頡利可汗の暴政に基くものなるが如く、通鑑は貞觀元年の條に「頡利政亂、薛延陀與回紇・拔野古等相帥叛之」と記せるが、唐書突厥傳貞觀二年に相當する條に「頡利得華士趙德言、才其人、委信之、稍專國、又委政諸胡、斥遠宗族不用、興師歲入邊、下不堪苦、胡性冒沓、數翻覆不信、號令無常、歲大饑、哀斂苛重、諸部愈貳」と曰へるは、其の暴政の一斑を語れるものなりとす。

此の戦は唐書阿史那社爾の傳にも馬獵山〔九〕の戦として記され、「貞觀元年鐵勒回紇薛延陀等叛、敗欲谷設於馬獵山、社爾助擊之、弗勝、明年將餘衆、西保可汗浮圖城〔一〇〕」と見ゆ、社爾は欲谷設と共に突厥に從屬せる鐵勒諸部、即ち回鶻僕骨同羅等を分統したること唐書同傳に記さるゝ所なれば、此の關係上、此の際に於る援軍たりしものなるべし。當時突厥の頡利可汗は、漠南に在りて唐と攻争し、欲谷設阿史那社爾等は此の如くにして天山地方に逐はれたれば、漠北に於る突厥の根據地地方は、こゝに回鶻薛延陀等の勢力下に歸するに至りしものと見るべく、始畢可汗以來突厥に從屬したりし回鶻は、茲に至りて大に勢力を發揮し、強盛の地歩を固むるに至りしものなりとす、然れども當時漠北に於る鐵勒諸部の中、最も優勢なりしものは薛延陀にして、回鶻拔野古等の諸部が東突厥に叛きたること、實は薛延陀の行動に附隨して起りたるものに外ならざるが如く、唐書阿史那社爾傳に、社爾が薛延陀回鶻等に破られて西したる後、西突厥の擾亂に乗じ、漸く其の地を占め勢を恢復するや、「謂諸部曰、始爲亂、破吾國者延陀也、今我據西方、而不平延陀、是忘先可汗、非孝也」と記せるものは、薛延陀が此の叛亂の魁を爲せるもの